

劇団きづがわ第74回公演(第41回大阪春の演劇まつり)



原発を受け入れ

原発と共に生き

そして原発に

故郷を追われた人々

その故郷を悼む

悲しき挽歌

挽歌

作・古川 健
演出・林田時夫

◇2017年6月17日(土) 11:00&16:00 / 18日(日) 11:00&16:00開演

◇リバティおおさかホール(大阪人権博物館) JR『芦原橋』徒歩約8分

◇前売券 一般3,000円 シニア(65才以上)2,500円 U30&障害者 2,000円

夫婦(2人)5,000円 (当日はいずれも1人当り500円UPです。)

挽歌

東日本大震災から5年。
戻りたくても戻れない故郷。
見通しの立たない不安。「原発」への複雑な思い。
気の遠くなるような復興への長い道のり...
あるホームレス歌人と、
小さな短歌サークル《梨の花》に集う人々とが織りなす
原発の町大熊町を想う我が故郷への『挽歌』。

ものがたり

2016年秋、会津若松市の路上で二人の男がちびた鉛筆を手に古びた手帳をめくっている。冬の足音も近く外で寝るの
は危ない。会津若松には福島第一原発の地元・大熊町から
多くの避難民が住み、役場の出張所もある。
舞台は、その避難民を中心とした小さな短歌サークル《梨の
花》である。《梨の花》は大熊町の町の花。メンバーは短歌を通
して心を寄せ合い、寄る辺ない気持ちを慰め合っていた。原
発事故によって故郷を追われた会員たちは、人に言えない思
いを抱き避難生活をしているのだ。
そして今日も、主宰の高山佳織を中心に例会が開かれよう
としていた。そこに、町の広報に呼びかけていた短歌募集に
初めての投稿が届く。待ちに待った投稿の差出人は《ホーム
レス》。刻むように書かれた5つの短歌、それはどれもが辛辣
な原発の歌であった。
驚き、それぞれに複雑な思いに駆られる会員たち。
やがて、思い思いに謎の《ホームレス歌人》に会いたいと思い、
行動を起こすが...



大熊町の町の花
「梨の花」

スタッフ

作 古川 健
演出 林田 時夫
演出補 和田 雅子
舞台美術 小森 健司
舞台監督 三村 省三
照明 新田 三郎
効果 照島 佳宏
制作 和田 雅子
池田 広美
橋本 依子
山村 八子
中山 講一
西尾 純子
岸里玉出

キャスト

高山佳織 (「梨の花」主宰)
夫・晃一 (元大熊町役場職員)
工藤 満 (元東電孫請け原発作業員)
中川良助 (会津若松市民で管理会社勤務)
杉田文香 (フリーター・元会社員)
林 四郎 (ホームレス・元福島第一原発当直長)
林田 彩
山田 一己
寺島 由浩(A)
島本 拓治(B)
河原 正隆(A)
坪井 正太(B)
魚住 美春(A)
橋野 悦子(B)
三村 省三 (特別出演)

特別出演の三村省三さんは「神戸ドラマ館ボレロ」の所属

ダブルキャスト 出演予定	
17 (土)	
16 時 B	11 時 A
18 (日)	
16 時 A	11 時 B

いつ爆ぜむ青白き光を深く秘め

原子炉6基の白亜列なる



3・11原発事故前の福島第1原子力発電所

リバティおおさか略図

